

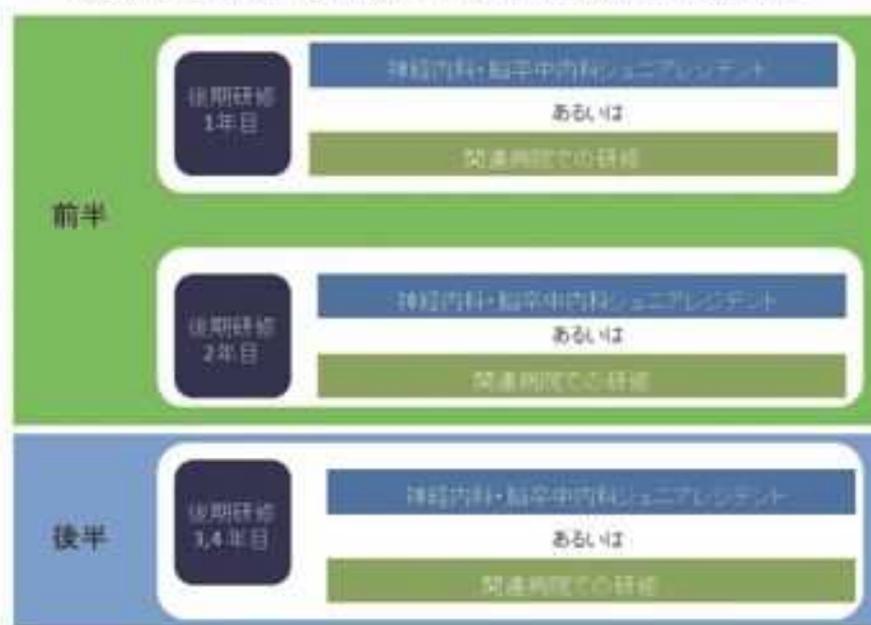
内科専門研修プログラム

サブスペシャリティ重点コース / 神経内科・脳卒中科コース

(1) コースの全体像

最初の3～4年間は総合内科専門医と神経内科専門医の取得をめざして内科研修を行いながら頭痛、脳卒中、パーキンソン病といった common disease から稀な疾患まで、また神経救急から難病の慢性期医療・呼吸などの全身管理、リハビリテーションなど幅広く経験する。プログラムは日本神経学会の卒後研修到達目標に準じ「臨床神経全領域をカバーできる神経内科医の育成」をめざす。さらに、脳卒中、リハビリテーション、臨床神経生理、臨床遺伝など診療に関連した各サブスペシャリティの専門医の取得も視野に入れる。大学での後期専門研修と関連病院群を循環して研修する。適切な時期からサブコースに分かれ、各サブスペシャリティの臨床経験を行う。医療機関、サブコースの選択は研修者の希望に応じるよう配慮する。また、希望に応じて大学院博士課程に入学して基礎・臨床研究を行う。

大阪大学医学部附属病院神経内科・脳卒中科における後期臨床研修



(2) コースの概要

コース名： 神経内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	神経内科・脳卒中科	神経内科一般、脳卒中、リハビリ、てんかん	9名	脳卒中を含む神経疾患の高度の専門的知識、診断技術の習得	2～5名	1年
大阪大学関連病院 大阪急性期総合医療センター、大阪医療センター、大阪南医療センター、大阪刀根山医療センター、JCHO大阪病院、JCHO星ヶ丘医療センター、多根総合病院、市立豊中病院、市立東大阪医療センター、市	神経内科、総合内科、脳血管内科 脳卒中内科 高血圧卒中内科	神経内科一般、脳卒中、リハビリ、臨床神経生理、臨床遺伝、てんかん	2～5名	脳卒中を含む急性期神経疾患および神経難病など慢性期神経疾患の治療の実践、リハビリ・臨床遺伝の知識・診療技術の習得、臨床神経生理検査の知識・施行技術の習得	各1～3名	1～2年

立吹田市民病院堺市立総合医療センター、箕面市立病院、大手前病院、近畿中央病院、関西労災病院、大阪警察病院、大阪労災病院、森之宮病院、岸和田徳洲会病院						
--	--	--	--	--	--	--

(3) コースの実績

大阪大学神経内科においては研修医一人あたり年間 100 例以上の症例経験が見込まれ、大阪大学関連病院においても同程度あるいはそれ以上の症例経験が見込まれる。いずれも専門医取得に必要な各分野別症例数は充足可能である。

(4) コースの指導状況

大阪大学神経内科には神経疾患各領域の専門家が配置されており、神経内科全般にわたる専門的診断・治療の研修が可能である。その他のほとんどの病院では神経内科あるいは脳卒中専門医が 2 名以上配置されている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本神経学会、日本脳卒中学会、日本リハビリテーション医学会、日本臨床神経生理学学会、日本人類遺伝学会、日本てんかん学会、日本認知症学会
資格名	神経内科専門医、脳卒中専門医、リハビリテーション科専門医、臨床神経生理学認定医、臨床遺伝専門医、てんかん専門医、認知症学会専門医
資格要件	神経内科専門医：臨床研修 6 年、学会会員歴 3 年、教育施設等での研修 3 年、認定内科医必要 脳卒中専門医：学会会員歴 3 年、学会教育病院での研修 3 年、神経内科・内科・リハビリ・老年医学等の専門医必要 リハビリテーション科専門医：臨床経験 5 年、学会会員歴 3 年、研修施設での研修 3 年 臨床神経生理学認定医：臨床経験 5 年、神経生理検査に 3 年従事、学会会員歴 3 年、認定施設での研修 1 年 臨床遺伝専門医：学会会員歴 3 年、認定施設での研修 3 年、基本領域学会の専門医必要 てんかん専門医：臨床研修 5 年、てんかん学会会員歴 3 年、認定研修施設等での研修 3 年
【学会の連携等の概要】	特に連携はなし

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 神経内科

担当者 奥野 龍禎

✉ okuno@neuro.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/neurol/myweb6/Top.html>

